■短信■谷中のリボン　渡辺四郎コレクション特別展示

権上かおる

2021 年度当学会の推薦産業遺産に認定された同コレクションが、東京家政大学博物館に収蔵されたことは、産業考古学　第 158 号（p72）で述べた。

このたび博物館から「新収蔵資料紹介　谷中リボン」展を開催が決定したとの連絡を受けた。

今回このお知らせとともに、同博物館の若干の紹介を行いたい。

同博物館の最も有名な収蔵品は「渡辺学園裁縫雛形コレクション」ではないか。2000（平成 12）年、12 月 27 日に重要有形民俗文化財の指定も受けている。

写真１
「東京家政大学博物館所蔵―裁縫雛形―渡辺学園裁縫雛形コレクション」
光村推古書院（2019）

裁縫雛形とは、同校・校祖渡邉辰五郎が 1874（明治 7）年頃に考案した裁縫教育システムである。その目的の一つに女子の自主自律のために技術を身に着けることだったという。明治時代初期にこの先見性は見事である。

簡単に言えば、例えば、1/3 の雛形尺を使い、和装、洋装、有職類から下着などの生活用品までを縫う長さを短くすることにより、早く数多くの作品を仕上げ、経験を積むことができるシステムである。

収蔵品の大部分は、卒業生からの寄贈という。現物では残りにくい下着類などの当時の状況を知ることができるという。日本の西洋化という服飾の大変革時期の貴重な証言者となっている。

今回の特別展・谷中のリボンに話を戻すと、リボンというと帽子のものや、女学生の髪飾りを連想される方も多いが、本コレクションは、これら以外のリボンも多数存在する。

当時は写真・印刷が情報伝達の手段とはなっておらず、これに代わり、晩餐会のメニューや物語、肖像なども多数含まれる。

写真２
渡辺四郎コレクションから（撮影；縣章彦）

リボン内容についての検討はこれからである。歴史に詳しい皆様の助言も大変ありがたい。

コロナの状況によって一般公開ができない場合もあるが、機会に恵まれれば、ご鑑賞いただきたい。

注）
東京家政大学博物館　https://www.tokyokasei.ac.jp/academics/museum/
谷中のこ屋根会（リボン情報多数）
https://nokoyane.com/topics/yanaka

谷中のリボン　渡辺四郎
コレクション特別展示

＊新型コロナの状況等で、一般公開ができない可能性もある。必ず、同博物館 HP で確認が必要となる。

期間：2022 年の 9 月中旬～23 年の 1 月中旬（予定）

場所：東京家政大学博物館常設展示室
（東京都板橋区加賀 1-18-1）